５年　社会科研究授業のまとめ（５月２８日）

１　小単元名及び小単元の目標

国土の気候の特色と人々のくらし（2/7 本時）

◎　我が国の国土の気候の概要や気候条件から見て特色のある地域の人々のくらしを理解するとともに，気候条件と人々のくらしや産業とのかかわりを考えようとする。

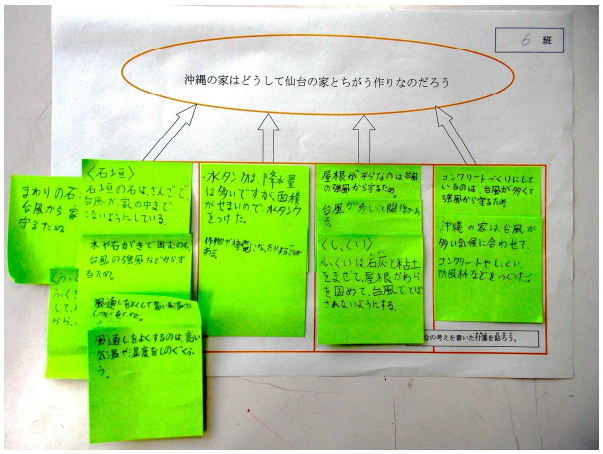

図１　クラゲチャート

２　本研究授業の提案について

沖縄の気候と人々のくらしについて考えさせるための手だてとして，以下の二つについて提案を行った。

(1)自分たちが住んでいる仙台市，さらに北海道の代表的な住宅の写真と比較させ，それらの相違点を考えさせることから，沖縄県の家の特徴に着目させるようにした。子供たちは前時に雪の多い白川郷の住宅について学習していることから，北海道の家の特徴にすぐ気付き，さらに自分たちにとって身近な仙台市の一般的な住宅は普段よく目にしていることから，沖縄の住宅がどれかはすぐに判断できた。以上のことから，３つの写真を導入時に活用する展開は効果的だった。しかし，沖縄か仙台か北海道かという限定した三者選択の投げかけだったために，子供たちにあまり考えさせることなく次の展開に移ってしまった。授業の導入としての驚きや発見という意味でも，物足りなさを感じる流れになった。「これは，どこの住宅か。」というような，もっと子供の思考を促す働きかけが必要だったと思うと同時に，同じ資料を提示するのにも，それをどう扱うかによって授業の流れが変わってしまうということを痛感した。

(2)沖縄県の特色を，NHK のデジタルコンテンツや資料集，教科書から調べて，ノートにメモし，その調べたことを基にして「沖縄県の家が工夫してある理由」を考えさせた。理由を付箋に書かせ，それをグループ発表の際に似ているものをまとめながらクラゲチャートに貼らせていった。クラゲチャート全体を見ながら，理由をグループごとに考えさせていったのである。クラゲチャートにまとめることで，子供たちは沖縄県の家が特徴的である理由を明確に捉えることができた。従って，クラゲチャートを基に自分の考えを持たせる手だては効果的だったと考える。しかし，子供たちの意見交流を活発に行わせるための手だてが乏しかった。クラゲチャートにまとめる時に，カテゴリー別の名前を考えさせるなどの投げかけが必要だった。

３　本研究授業の授業技術課題について

(1)沖縄県の気候とくらしの特色に気付かせるために，教科書や資料集以外にも沖縄の台風の様子が分かる短いデジタルコンテンツを活用したが，より強い台風のイメージを実感させる上で効果的だった。また，導入段階で提示した写真は，特徴を捉える上では概ね分かりやすい資料だったが，２の「提案について」でも述べたように，提示の際に，児童にもっと考えさせるような投げかけの工夫が必要だった。

(2)一人一人が自分の考えを付箋に書き，グループでクラゲチャートにまとめていく活動は，学習課題とその答えが視覚的に捉えさせやすく，効果的な取り組みだった。また，グループ活動でそれぞれがどんな理由を挙げているのか，付箋にまとめていることからその考えの把握は容易だった。しかし本来ならば机間巡視をして把握した内容を基に，授業の終末段階でまとめる活動に生かしていきたかったが，時間が足りなくなったこともあり教師主導のまとめになってしまった。今後は，もっと児童の考えていた言葉をつないでまとめをしていくような授業展開を工夫したい。

４　次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて，次回の研究授業では以下の点を意識した授業を展開していきたい。

・資料提示の際の指示や発問を工夫し，児童が積極的に考える授業。
・一人一人の考えを生かしながら交流することで，新たな考えや学びを生み出すことができる授業。